



IATSSフォーラム連携プロジェクト

2207A カンボジアにおける交通安全 行動変容プログラムの開発と実施



会員

PL 土井 健司	大阪大学大学院工学研究科 教授
北村 友人	東京大学大学院教育学研究科 教授
中村 彰宏	中央大学経済学部 教授
吉田 長裕	大阪公立大学 准教授

特別研究員

山口 直範	大阪国際大学人間科学部 教授
葉 健人	大阪大学大学院工学研究科 助教

Or Vitou IATSS フォーラム・カンボジア同窓会(CIAA)会長

Heang Omuoy CIAA 副会長

Prom Sophea CIAA 副会長

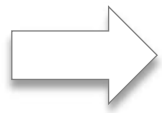
Nuon Kossoma IATSS フォーラムカンボジア事務局 / CIAA メンバー

Chhaly Samsokrith CIAA メンバー

背景

アジアの途上国においては、経済成長を実現する中で、急速なモータリゼーションと道路整備が進み、大都市の郊外部や地方部においては、**走行速度の上昇**などに起因した**交通事故の増加**が共通課題となっている。

カンボジアでも、幹線道路(国道5号線)の整備・高規格化に伴い、同様の課題が生じている。この対策の一つとして政府アクションプランに**交通安全教育**や**行動変容プログラム**が位置づけられ、JICAによる**交通安全技術協力プロジェクト**もスタート。

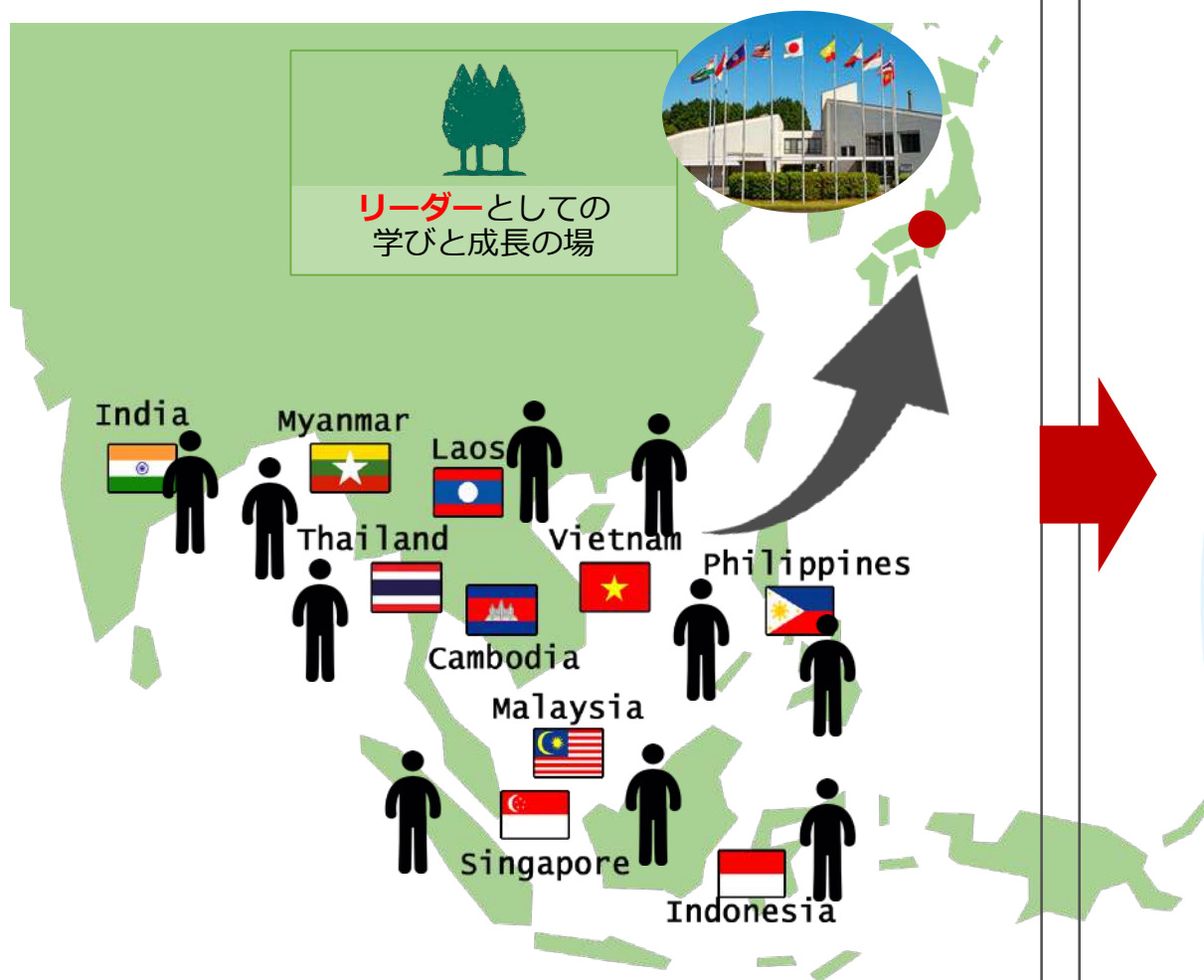


- ・プログラムに関わる多様な主体間の**クロスセクター連携**
- ・連携を主導する**リーダーシップ能力の高い現地の人材・組織の協力**

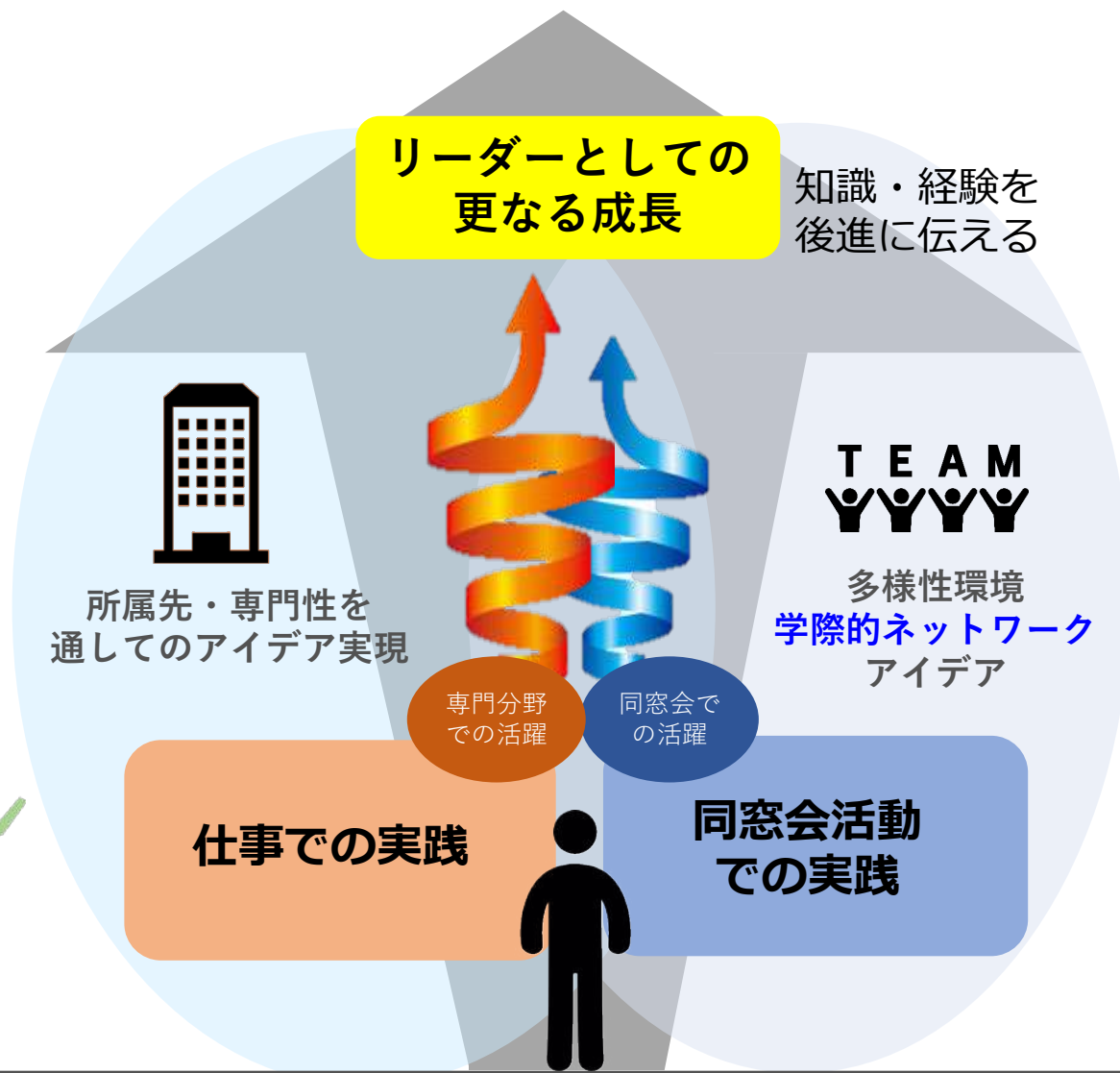
目的

IATSSフォーラム・カンボジア同窓会およびJICAと連携し、行動変容プログラムチームを立ち上げる。さらに、現地の実態および行動変容理論の最新動向の把握に基づき、学際的な視点から新たな行動変容プログラムの概念モデルとその実装に向けた調査方法(児童・学童対象)を検討する。

IATSSフォーラム研修



帰国後



IATSSフォーラム同窓会

自国の社会に貢献したい志を持った卒業生が中心
となり組織化、社会貢献活動を自主的に実施



研修で培った学びや経験をはじめ、同窓生の専門性、人的リソースやネットワークを活用し、豊で安全なより良い社会実現に向けた実践の場

同窓会活動内容

1. 豊かで安全なより良き社会実現に向けた活動
 - ✓ 同窓会プロジェクト実施
 - ✓ IATSS/IATSSフォーラム合同プロジェクト(交通関連テーマ)
 - ✓ 社会貢献・ボランティア活動の推進
2. 後進のリーダーシップ育成
3. 業種・世代間を超えた多様な人的リソースやネットワークの構築



カンボジア
バイク事故減少への取り組み



インドネシア
災害復興後の地域支援



インド
廃棄物処理システムの構築



マレーシア
観光を活用した地域活性化

フォーラム研修バックアップ
フォーラムPR活動
研修生募集・選考協力
同窓生情報提供



IATSSフォーラム同窓会

同窓会活動への支援と連携

1. 同窓会プロジェクト支援
(約USD2,000/各国同窓会)
2. IATSS Forum連携プロジェクト
(交通・安全領域プロジェクト)
3. IAM (国際同窓会) の開催
(2~3年に1回)
4. 各種情報提供&連携



設立年 : 2000年 (2015年に団体登録)
 メンバー : 68名 (2022年現在)
 構成 : IATSSフォーラムの修了生による構成
 (産44%, 官19%, NGO16%, 学11%, 他10%)
 会長(1), 副会長(2), 役員(9), 他
 活動内容 : 持続可能な社会構築を目的に各種プロジェクト,
 次世代のリーダー育成活動, セミナー, 研修活動



活動内容	活動実績
Project "Cooling Cambodia" 地球温暖化・エネルギー保全教育	2012年より7回実施
Project "Inspiring Cambodia" ユースエンパワーメント	2019年より2回実施
Project "Trashure Cambodia" 環境保全・ごみ問題	2019年より2回実施
メンターシッププログラム/リーダーシップキャンプ 若者へのリーダーシップ育成	2019年より継続実施
Public Seminars (リーダーショップセミナー他) トピックベース公開セミナー	2014年より年間1回 (現在まで13回実施)
学校支援, チャリティ活動	2012年より数回



ヘルメットを装着せず、3人以上で二輪車に乗る姿をしばしば見かける



小学生向けの交通安全教育の教材

8月 8日(月) バッタンバン州教育省訪問

9日(火) オータキ小・中学校, チュレイ高校の通学状況視察

11日(木) フォーラム同窓会(CIAA), 王立プノンペン大学
公共事業運輸省, 現地コンサルとの会合

12日(金) JICA事務所訪問

オータキ小学校の登校状況(国道5号線・整備済みの沿線)

禁止する法律が無い
ので禁止していない

子供たちの通学圏：5～6キロ圏内， 通学手段：1～2年生 ほぼ親の送迎， 3～6年生 徒歩+自転車+二輪



交通安全については社会科の中で、年間で20時間教えている(6年生)。2年生以上では教育省発行の教科書を用いて、各学年の社会科の先生が教えている。

教科書を読ませ、「この絵から何がわかるか」などの質問をした上で道路で遊ぶ危険性を教えている。

教科書を用い、道路上でどのように行動すべきか、どういうことをすると危ないかを教えている。知識を教える教材としてHandicap International (NGO)の教科書などがあるが、授業では使っていない。

子供たちの危険行動:左右をよく確認せずに道路を横断すること。逆走すること。
⇒道路を渡るときは左右確認と、音をよく聞くように指導している。

スクールゾーンでの速度規制:標識が設置されているが、誰も守らない。

国道5号線が整備前(6か月前)と整備後(現在)の比較

⇒現在の方が危ないと感じている。スピードが速く学校の前でも飛ばしていく。2車線あるので、すぐに渡れず、中央分離帯でいったん止まらねばならず、その間、横を車が飛ばしていくので危険。
⇒危険になったと感じるが、国道5号線の利用区間は数百mであり、通学時の事故は起こっていない。

交通安全促進に関する学校からの声:道路横断の指導をして欲しい。簡単に指導できる教材や資料が欲しい。道路を安全に横断できる移動式のバリケードが欲しい。

道路の横断環境(小学校前)



オータキ中学校およびチュレイ高校の通学状況

▼徒歩通学。傘は珍しい。



▼中学生も二輪通学



▼中学の駐輪スペース



Honda
Dream
多し

▼高校の駐輪場



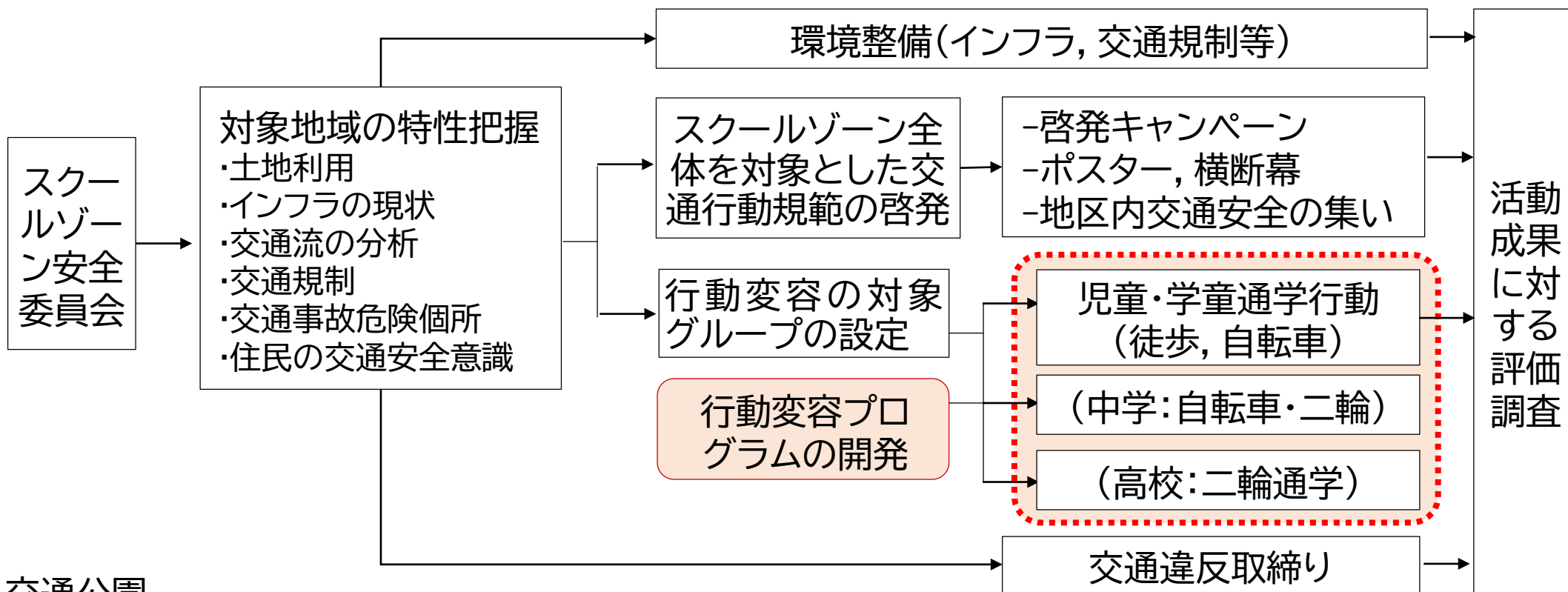
＜中学校＞ 敷地内に小学校も隣接

- Commune Policy for Trafficに従って、教員による生徒への教育, 交通警察による先生・生徒への教育（標識の意味等）が週に1回行われている。公共事業運輸省による教材あり。
- 交通標識の理解: 生徒がどの程度理解しているかは不明。
- 安全に道路横断するための移動式バリケードがあると良い。

＜高校＞ 4割が二輪で通学している。



スクールゾーンにおける行動変容プログラム

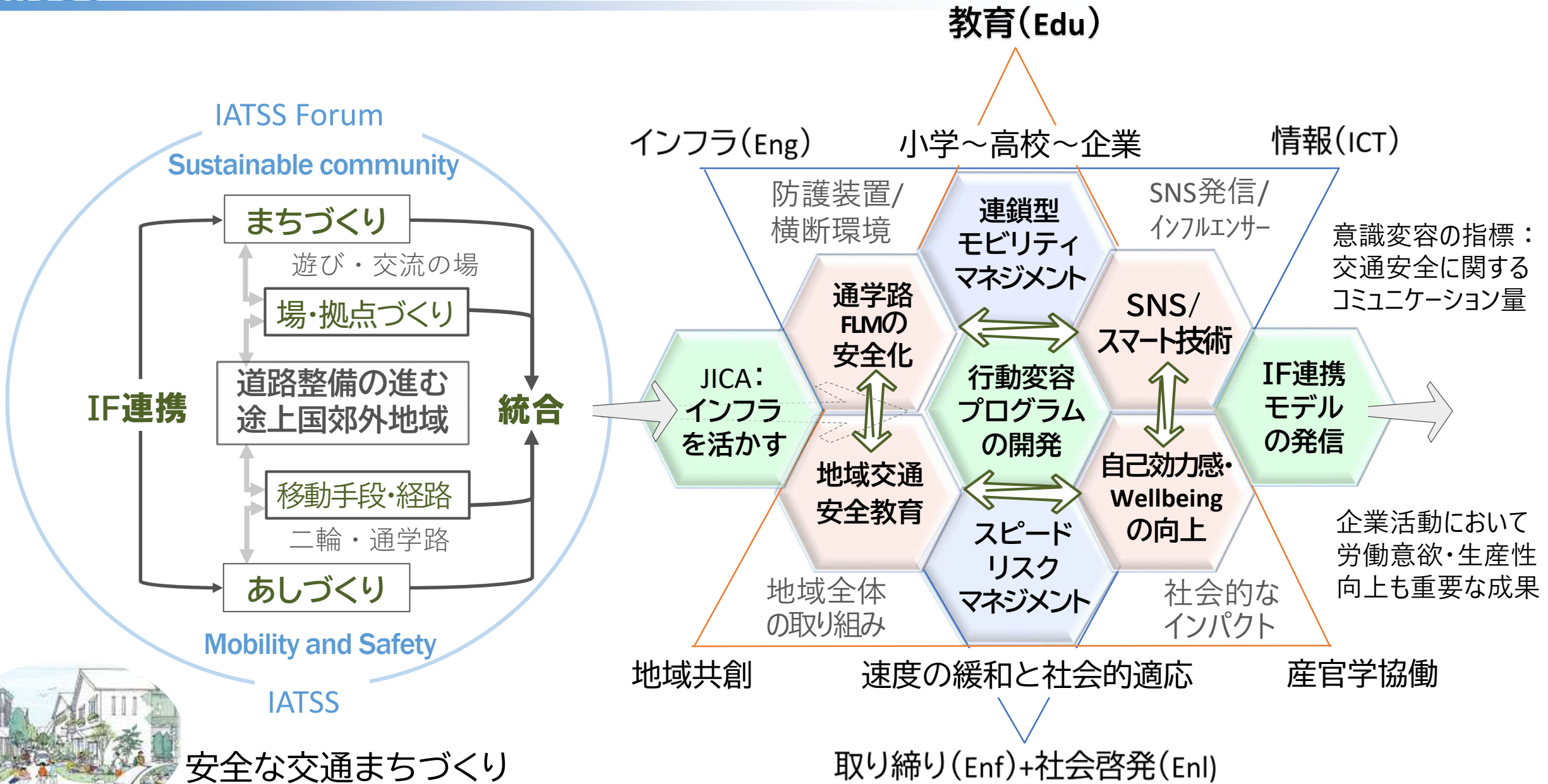


交通公園

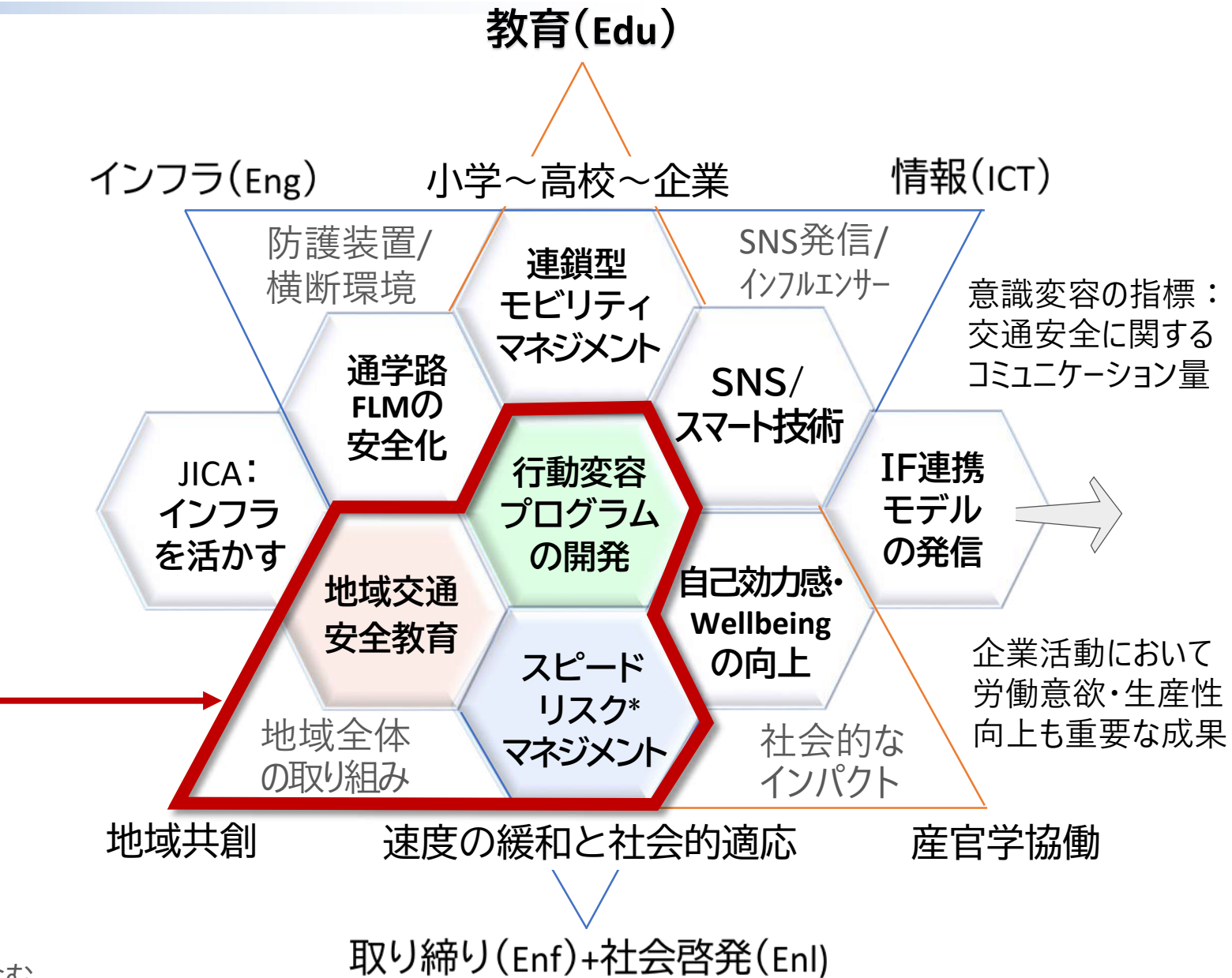


評価手法の検討とマニュアルの作成
(交通参加者の態度変容分析を含む)

心理的方略を考慮した行動変容プログラムの評価及び検討会の実施

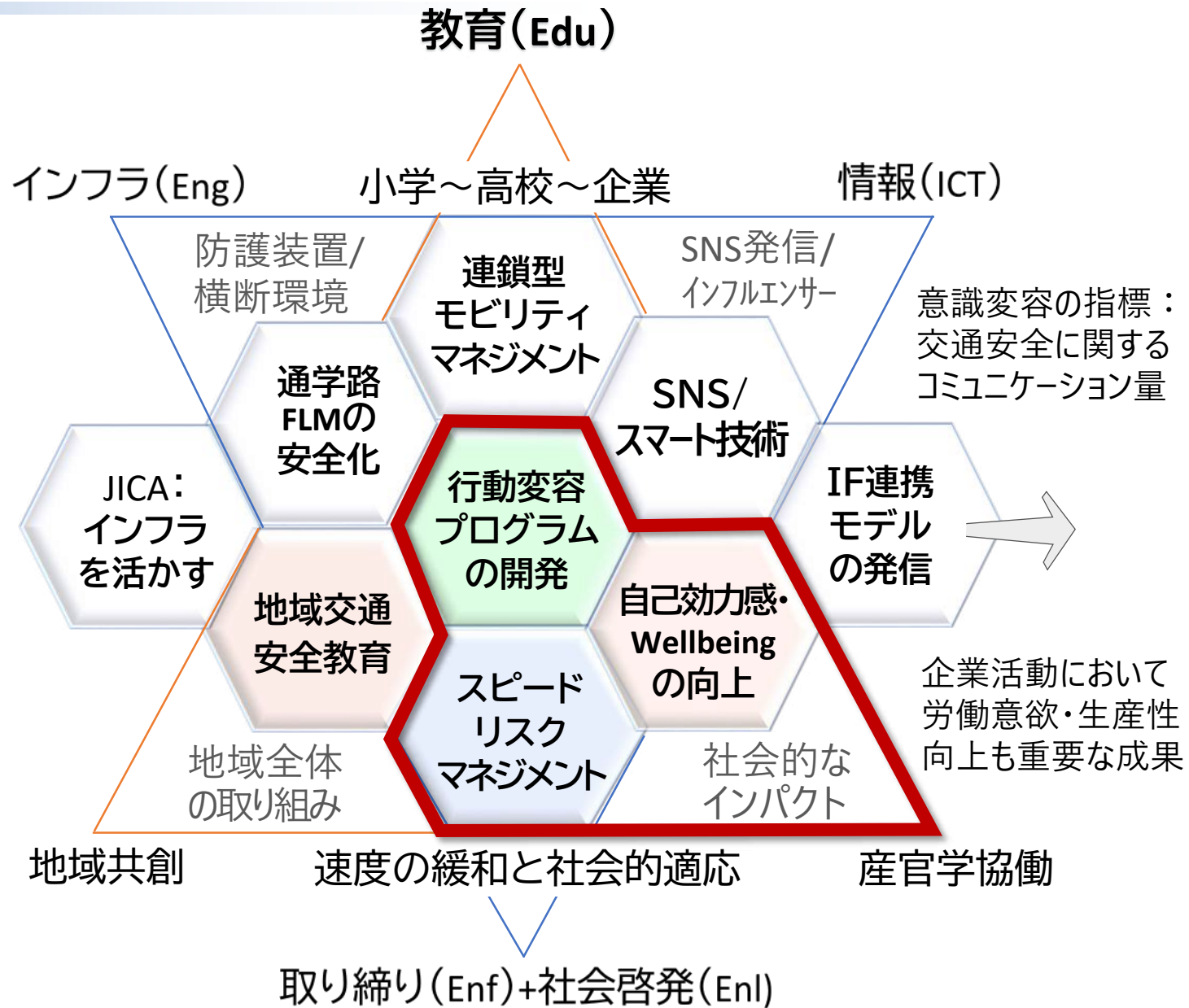


- リスクが存在する道路交通環境への適応を支援するための資質・能力を育むこと
- すなわち、**リスク・マネジメント**や**危機管理**に関する資質・能力の育成
- **リスク意識**を、発達段階に応じて拡大していくことが重要
- 「**自己** → **他者** → **地域**」のリスク



*スピードに起因した危険予測・回避上の諸リスクを含む

- 「教え込む」教育方法は、自分の経験により導き出した方法と合っていなかったり、命令への抵抗感が生まれたりする。
- 自分で考えて判断し、「自分で自分の行動を決める」ことが重要であり、**自己決定**の度合いが高いほど**行動変容**が起こる可能性が高まる。
- 事故のリスクという「デメリットを減らす」だけでなく、「**メリットを増やす**」ことも重要である。



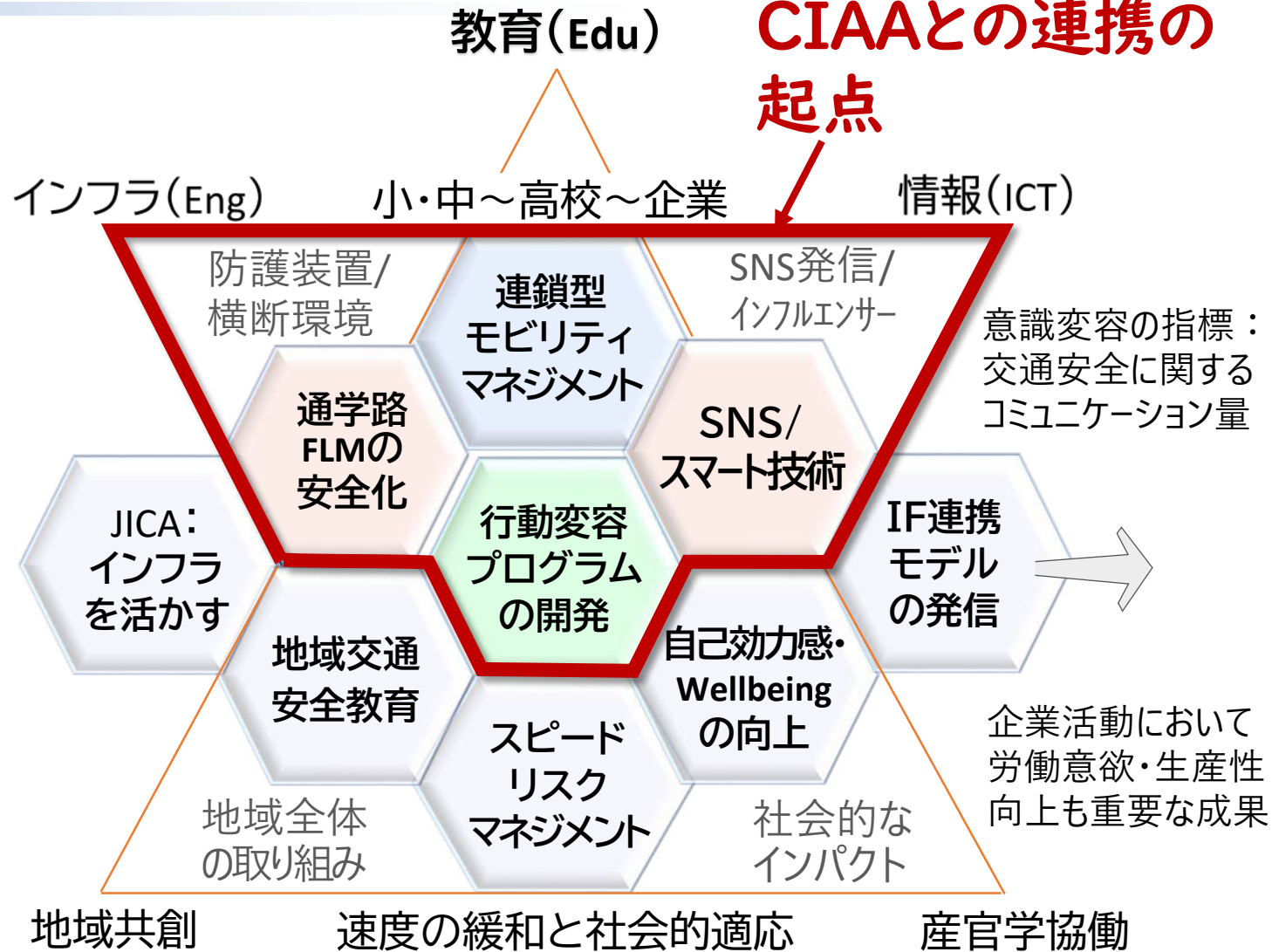


- 地域の危険個所に関する情報を提供する
- 具体的な危険予測・回避方法を、寸劇などの実演を交え提示する。
- 地域の交通安全意識を高めるための、キャンペーンを企画したり、標語を考えたりする。
- 高校生が小中学生に、或いは、中学生が小学生に対して実施。



School Traffic Safety Wardens(NZ)

**フォーラム同窓会
CIAAとの連携の
起点**



中学生を対象とした交通安全の意識・行動に関わる調査



3月10日にブンペンから81キロ離れたコンボンチュナンの中学校2校を訪問しました。CIAAは、そこでの質問紙調査において、ファシリテーターを努めると共に、現地にあった調査方法を提案しました。子ども達、若者やコミュニティを対象とするWSの実戦経験が多く、コミュニティエンゲージメントを強みとしています。



交通にはルールがあることを知っていますか？



今日の調査に参加して、楽しかったと感じた人はいますか？

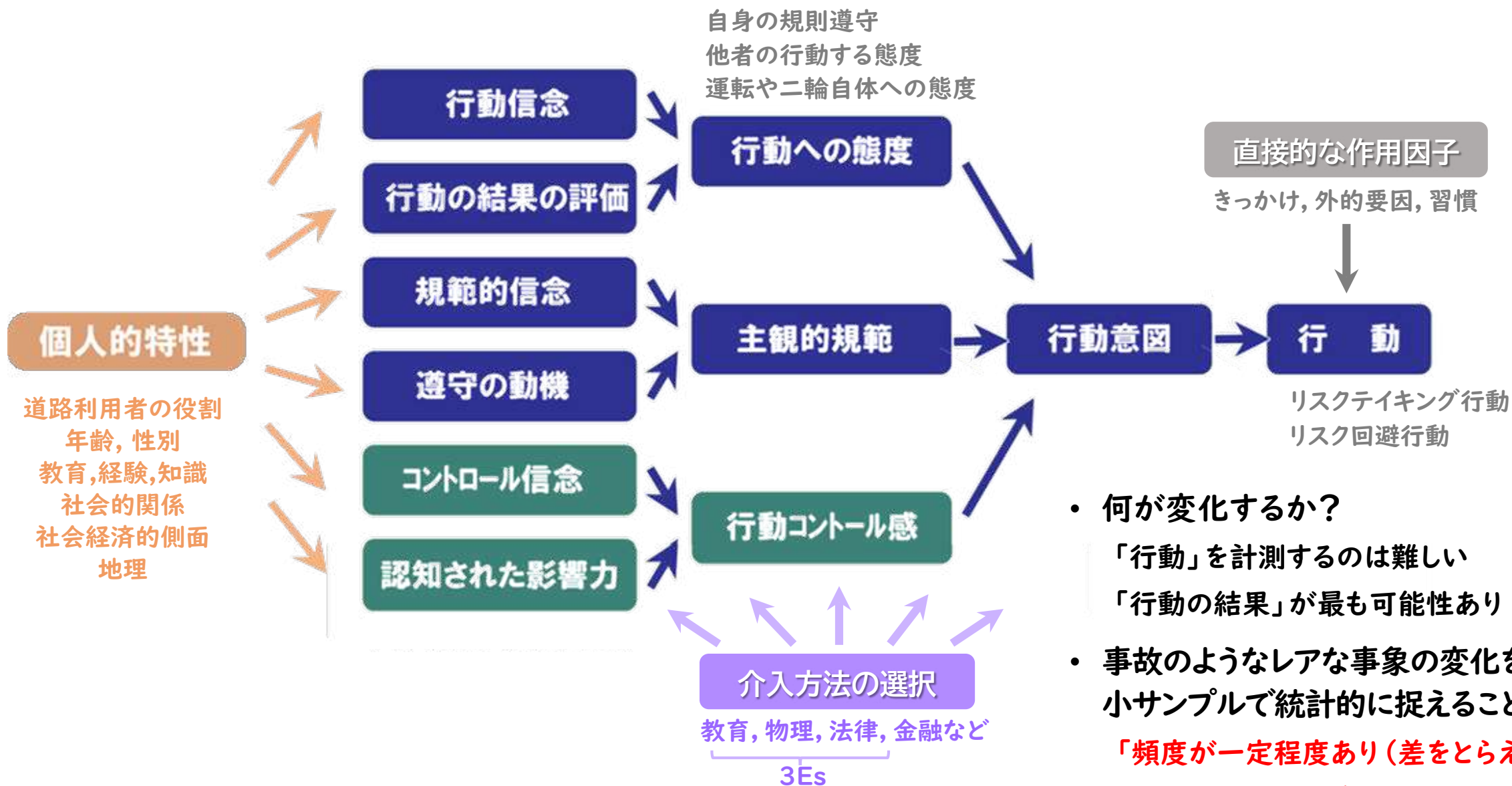


交通ルールという言葉は知らなかったが、今日の調査を通じて、自分はそれらの内容を知っていたと気づいた人は？



写真：コンポンチュナンの中学校での調査風景

TPBを基本とする行動修正モデルと質問紙設計



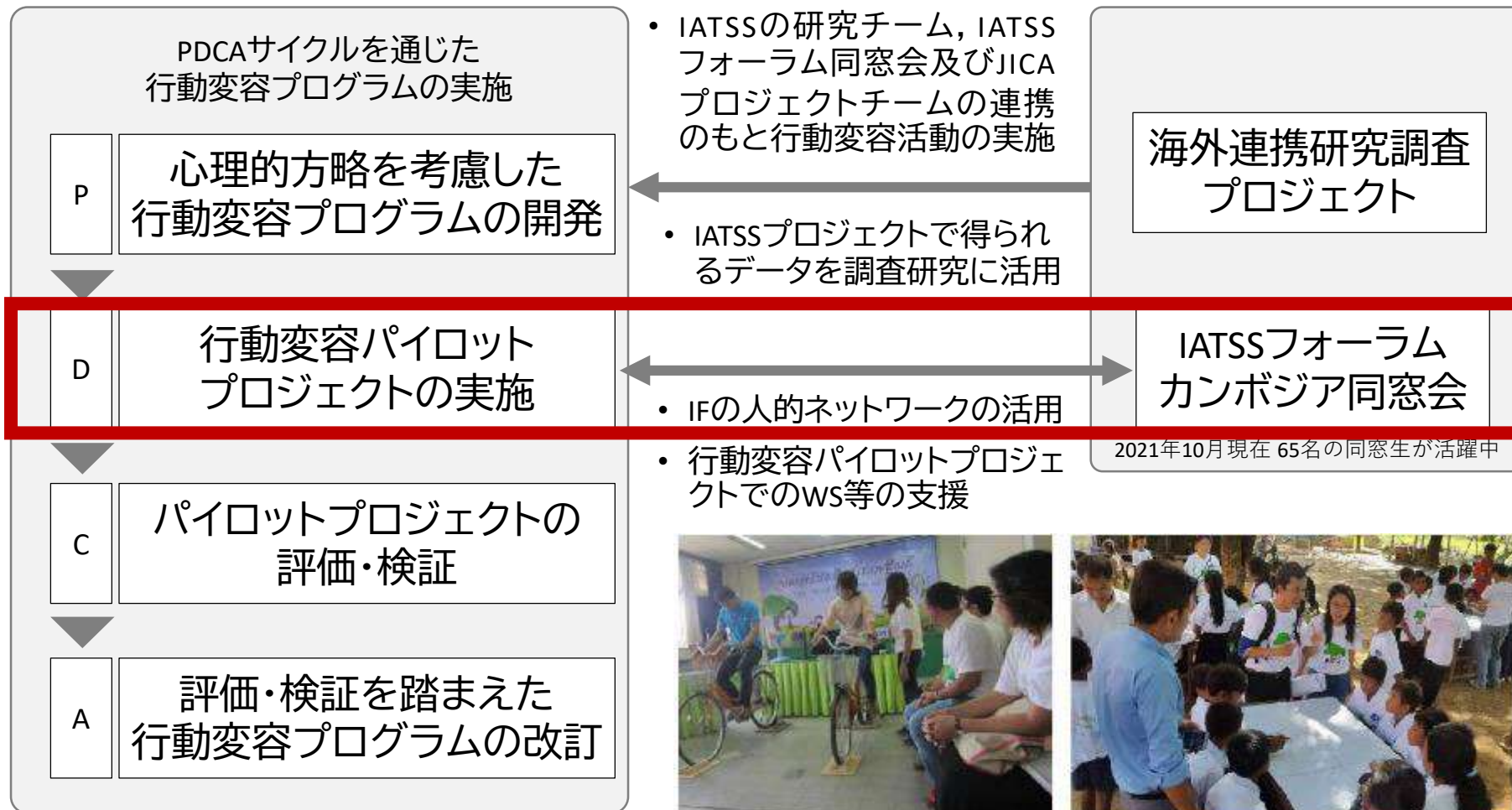
- 何が変化するか？
「行動」を計測するのは難しい
「行動の結果」が最も可能性あり
- 事故のようなレアな事象の変化を短期間・小サンプルで統計的に捉えることは困難
「頻度が一定程度あり(差をとらえやすい), 小学生等が認知できる「指標」は何か？

JICAプロジェクトとの連携

IATSSフォーラム同窓会との連携

JICAプロジェクト

IATSS



3月中に実施したパイロット質問紙調査の結果に基づき、概念モデルと調査方法の妥当性を検証。

写真：IATSS同窓会活動事例: Program“Cooling Cambodia” Since 2012

ご清聴ありがとうございました。



公益財団法人 国際交通安全学会

International Association of Traffic and Safety Sciences

IATSS Forumについて



1985年に本田宗一郎・藤澤武夫両氏により設立され、アジア10カ国から若く優秀な人材を日本に招聘し、“共に考え共に学ぶ”をモットーに、セミナー、フィールドスタディ、グループ研究などを通して、参加研修生が互いの国について理解し、自国・アジアの現在の課題に取り組む場です。



目的

アジアの将来を担う人材の育成を目指す
→リーダーシップ研修の実施

「協働・共創型リーダーシップ」

多様性の情報・環境の中から新たな価値を生み出す能力および目標の達成に向けて、グループが持つ力を最大限に発揮させることのできる人

招聘対象者

10ヶ国

(インド、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム)
年齢35歳以下、職歴2年以上の経験者



IATSS フォーラム研修内容

- ・「共に考え共に学ぶ」をモットーに、セミナー・視察・グループ研究、文化交流などを通じ、参加研修生が互いの国について理解を深め、アジアと日本の現在の課題に取り組む
- ・リーダーに必要なスキル、視点、マインドをプログラムを通じて体得する
- ・各国の代表とリーダーとしての素養を磨き、人間的な成長を目指す

研修テーマ・内容



- ・SDGsをベースとした、持続可能な発展・地域づくりをテーマに研修を構成
- ・各セミナー、フィールドスタディ、グループスタディ内ではSDGs関連内容、リーダーとして必要な知識や考え方をテーマに扱う

四日市市

三重県



鈴鹿市



フォーラム実施プロセス

